

平成28年2月3日

第3回 八尾翠翔高等学校 学校協議会（報告）

協議委員（5名）の参加をいただき、本校教職員（4名）が同席し今年度の学校教育自己診断について協議を行った。

【説明】

12月に実施した学校教育自己診断の結果について、教頭より説明。

昨年度のデータと比べて、項目1の「入学して（させて）良かった」のスコアが、生徒・保護者ともに昨年度より上昇しているが、否定的な数値も少ないながらもまだ存在する。今後も努力が必要と認識している。また教員によるアンケートでは、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」の肯定的数値が大幅に上昇しており、教員の課題改善への姿勢が高まっていることが分かる。

【意見・提言】

- ・近隣では「指導のきっちりした高校」という声が多い。保護者にとってはそのような高校が良いと考えている。
- ・本校独自の「教養テスト」に対する準備など、入学当初は過重な負担だと感じている生徒もいるかも知れないが、学年を追うごとに慣れていき、卒業時には大変為になったという生徒が大半だ。むしろ、教員の熱心さが伝わり、非常に学習熱心な学校だと保護者は考えている。
- ・2年生のスコアが他学年に比べ、多くの項目でやや低い。これは入試制度の変更に伴う入学時の挫折感から来るものなのか、分析の必要がありそうだ。
- ・中学校側から見た場合、保護者の思いも様々で、入学までとは異なり、入学後は学校に関して無関心になりがちな傾向がある。
- ・授業でのICT活用がやや少ないようだが、大学でもこれには疑問があり、パワーポイント等を使うと、学生の筆記と理解の力が身に付かないという意見もある。一概にICT活用が良いかどうかは議論のあるところだ。
- ・プレゼンテーション能力の育成についても課題だが、中学校ではタブレット等も利用しているが、生徒の方が使い方の吸収は早い。
- ・子ども会活動などを活発にやっている生徒は、人前で話ができるリーダーシップもとれるので、小さい時からの積み重ねが大切だ。
- ・若手教員の育成についても、全校生徒全員の前に立って話をする経験などさせることが有効かもしれない。
- ・大学では、学生が中心となってセミナーを企画したり、講師の依頼や会場の設定まで任せることがあるが、こうした経験を持つ学生は就職時でも実績をあげてくれる。
- ・校内研修などを若手教員に企画させてはどうか。
- ・研修の一環として、中学校等との相互の交流や研究授業などの機会を持つのも良い。